



ワークショップ

広島湾の魅力と課題を探る

平清盛ゆかりの広島湾の保全・再生に向けて

呉会場 第2回実施報告（速報版）



広島湾の魅力や広島湾を保全・再生していくための課題と解決策について考える「**広島湾の魅力と課題を探るワークショップ 呉会場 第2回**」を1月29日（日）、大和ミュージアム会議室において開催しました。

呉市内を中心に近隣市町より23名が集まり、第1回ワークショップで抽出した、広島湾の魅力資源を活かした地域の課題に対する解決策と役割分担について、それぞれの立場から活発な意見交換が行われました。

ご参加頂いた皆様、ワークショップ開催にあたりご協力・ご支援を頂いた皆様には、あつく御礼申し上げます。

※ワークショップの様子は、1月30日の中国新聞の朝刊でも取り上げられました。

《実施日時》 平成24年 1月29日（日）13:00～16:00

《実施会場》 大和ミュージアム会議室 4F会議室

《参加者》 23名（男性17名、女性6名）

※ワークショップ第1回に参加頂いた方に、引き続き参加して頂きました。

プログラム1 講演「呉の歴史・文化について」

講演「呉の歴史・文化について」では、大和ミュージアム館長 戸高一成氏より、明治時代以降に呉市が軍港として、造船の街として発展してきた背景や歴史についてご講演を頂きました。

元々は瀬戸内海の小さな村であった呉が、明治時代以降、わずか数十年の間にアジアトップクラスの造船の町に発展したこと。明治20年代の呉海軍工廠の基本プランに基づいて造られた造船地帯が、100年経った現在でもほぼそのままの状態で見られることなどが、呉の素晴らしいところであるとのお話を頂きました。

大正10年に「ワシントン海軍軍縮条約」が発議され、世界中で戦艦の建造を止めようとしたとき、海軍ではそれまでに培った技術を維持・向上させるためにそれまで所有していた10隻の戦艦を順番に造船所にドック入りさせて、常に現場の工員が訓練できるようにしたこと。工員の養成学校をつくり、学校と現場の往復を繰り返させることで、常に最先端の技術に触れるような教育をしたことなど、「ものづくり」に関する工夫をご紹介頂きました。

このような呉の歴史から、その時代・地域にしかできないものをつくりあげていくことが地域の文化であること、100年後の人に評価されるような次世代の広島湾の文化をどのようにつくりあげていくかが大事であるとお話を頂きました。



大和ミュージアム館長 戸高一成氏によるご講演

プログラム2 ワークショップ

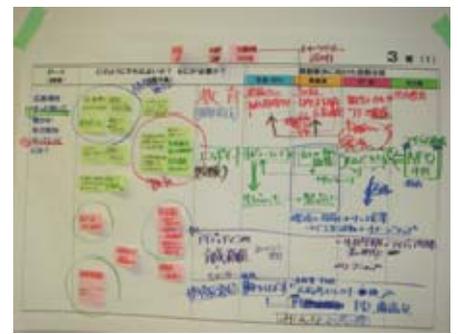
ワークショップでは、第1回ワークショップで抽出した「広島湾の魅力資源」の「よいところ」、「足りないところ」を踏まえ、広島湾再生行動計画の3つの目標に関係するテーマを各班ごとに決めて、解決策と役割分担について話し合いました。参加者からは色々な解決策のアイデアが出されましたが、行政だけが行うのではなく、地域（自分たち）ができることは何か、といった視点も含めた役割分担についても議論を深めていきました。



意見交換の様子



発表の様子



とりまとめ資料

とりまとめの一例

| 広島湾再生行動計画の目標 | どうすればよいか？何がよいか？（解決策） | 課題解決に向けた役割分担（案） |
|---|---|--|
| 森・川・海の健やかな繋がりを活かし、豊かな広島湾を保全・再生する。 （水環境や自然環境の保全・再生） | （広島湾をもっと知って、豊かな魚介類を守っていくには？） ○魚介類製品の包装紙に、海の汚れの状況を知ることができるものを載せてPRする。 ○カキだけではなく、複数の魚介類に絞って商品化とPRを行う。（広島湾セレクト〇〇種） | （行政） ○広島湾の魚介類のブランド化 （事業者） ○売上の一部をボランティア活動へ協賛 （市民・NPO） ○広島湾の魚介類のセレクト（種をしぼってブランド化） |
| 人と海との繋がりを取り戻し、親しみやすい広島湾を再生する。 （親水空間の創出や利用の活性化） | （もっと身近に海が感じられるようにするためには？） ○呉、江田島を巡るサイクリングロードを整備する。 ○国道31号線に、呉の景色を見渡せるパーキングを整備する。 | （行政） ○支援は大きく、管理は緩やかに（管理しすぎているため気軽に干潟等へ入りにくい。市民がモラル向上を図りながら管理するのがよい。） （市民・NPO） ○環境モラルの向上（ゴミ持ち帰り等） |
| 宮島などの魅力ある自然景観、歴史・文化を活かし、美しい広島湾を保全する。 （自然・歴史・文化的資源の保全と活用、ゴミなどの削減） | （沿岸域の歴史的な資源を保全しつつ活用していくためには） ○観光客が立ち寄りのお店で、呉のことを話せる知識を持ってもらう。 ○呉は軍のイメージが強いので、「ノスタルジック」をテーマとしたPRを実施。 | （行政・事業者） ○官民一体、自衛隊や海上保安庁とも連携した体験学習の検討 ○「軍」からイメージチェンジしたPR （市民・NPO） ○地元の人からの魅力に関する情報収集 ○呉のことが観光客に簡単に説明できるような知識を持つ |

【その他の主な意見】

（水環境や自然環境の保全・再生）

- 海を知るために、泥をとって臭いをかいで頂くような環境体験クルーズを実施する。
- アイデアを培うような学部を大学に創設する。（アイデア学部）

（親水空間の創出や利用の活性化）

- 大和ミュージアムの集客力を活かし、呉市周辺への滞在率を高めるため、宿泊と観光コースがセットになった観光パックをつくる。

- 呉市、江田島市単位での観光マップはあるが、広島湾エリア全体での1枚のマップづくりを行う。

（自然・歴史・文化的資源の保全と活用、ゴミなどの削減）

- 以前、小学校単位でみなと祭りに参加していたように、地域と教育の関わりを復活させる。
- 大和ミュージアムに、造船技術に触れられるような体験メニューや展示物をつくる。

ワークショップの結果については、今後「広島湾再生行動計画」の取り組みの参考にさせて頂くとともに、「広島湾再生ホームページ」でも公開する予定です。（<http://www.cgr.mlit.go.jp/chiki/hiroshimawan/>）